

R2 授業改善プラン（算数）

学 年	・課題（児童の実態）	○具体的な改善プラン
1 年	<ul style="list-style-type: none"> 数の概念は概ね定着しているが、数の構成の定着はまだ確実ではない。 文章問題からの立式が正しくできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返し上がりや繰り返し下がり計算へのつながりを意識させ、授業の始めの5分間を計算の時間として取り組ませ、反復練習をさせて定着を図る。 ○文章問題に多く取り組ませる。その中で「分かっていること」にはアンダーラインを引かせ「求めること」には、波線を引かせるなど、キーワードを探すことに慣れさせるよう指導する。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し下がりのある筆算の計算が苦手な児童が多い。 自分の考えをノートに表現する方法を知らない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一つ一つ計算の手順を確認させながら、個別に指導する。週に1回程度、授業の始めに、計算練習の時間をとり指導する。 ○文章題から立式した後で、式の意味や計算の方法を図や言葉で表す方法を指導し、書かせる機会を増やす。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項が積み重なっていない児童が多い。 粘り強く問題に向き合い、試行錯誤しながら解決しようとする意欲が低い児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の始めに、前時や本時に関連する内容の既習事項を振り返る時間を設け、本時の学習内容に見通しをもちやすくする。 ○じっくり考えることで「分かった」「できた」という成功体験を積み重ねられるように、課題提示や教材を工夫する。
4 年	<ul style="list-style-type: none"> 九九に苦手意識があり、掛け算や割り算の筆算に課題がある児童が多い。 自分の考えをノートに書くことはできるが、全体での発表には苦手意識をもっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計算問題に取り組む時間をとり、何問も解かせることで定着を図る。習熟度別指導においては、教材の問題文の数値をクラス毎に変えるなどして、児童の実態にあった指導を進める。 ○考える時間を多く確保し、ペアで考えを伝える活動を取り入れる。自分の考えを声に出して伝える機会を増やすことで、全体での発表に自信をもたせる。
5 年	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項（乗除の計算）が習熟されていない児童が多い。 自分の考えを、整理してノートに表現したり、全体の前で発言したりできない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の初めや授業の始めに、解決に必要な既習の計算方法を確認させながら授業を進める。児童の実態にあった問題文の数値を設定するなどし、計算ができる場面を増やしていく。 ○自力解決に入る前に、全体で見通しをもたせる授業を実践する。また、少人数で考えを共有させ、友達の見方・考え方に触れさせながら、自分の意見を表現させる場面を設定する。
6 年	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の積み重ねが定着していない児童が多い。 児童間の学力差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時を振り返る時間をとって既習事項を確認させたり、解決に必要な既習事項をヒントとして提示したりしながら、授業を進める。 ○「分からないこと」をそのままにさせないために、少人数で考えを表出させ、友達に認めてもらうことで自信をもたせ、全体で前向きに学習に取り組めるようにする。